

豚丹毒菌新型株に注意してください！

豚丹毒とは？

- ・豚丹毒菌により起こる感染症で、急性敗血症型、蕁麻疹型、慢性型（関節炎型、心内膜炎型）など様々な症状を示します。
- ・宿主域が広く、豚やイノシシの他、人を含むほ乳類や鳥類にも感染します。
- ・家畜伝染病予防法で届出伝染病に指定されているとともに、と畜場で発見された場合は全部廃棄の対象となります。

○急性敗血症型：40度以上の高熱が出て、1～2日の経過で急死する。死亡率は高い。

○蕁麻疹型：発熱や食欲不振などに加え、感染1～2日後に菱形疹（ダイヤモンド・スキン）と呼ばれる特徴的な皮膚病変を示す。

○慢性型：関節炎は四肢の関節に好発し、腫脹、疼痛、硬直、跛行が見られる。心内膜炎の場合多くは無症状で、と畜場で発見される。



急性敗血症型: 皮膚のチアノーゼ



蕁麻疹型: 全身皮膚に形成された菱形皮膚疹



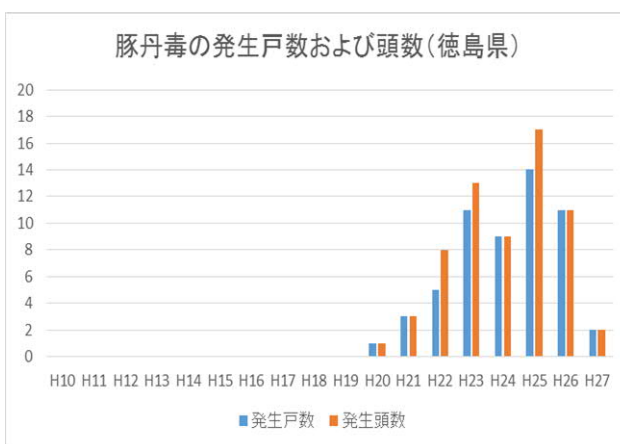
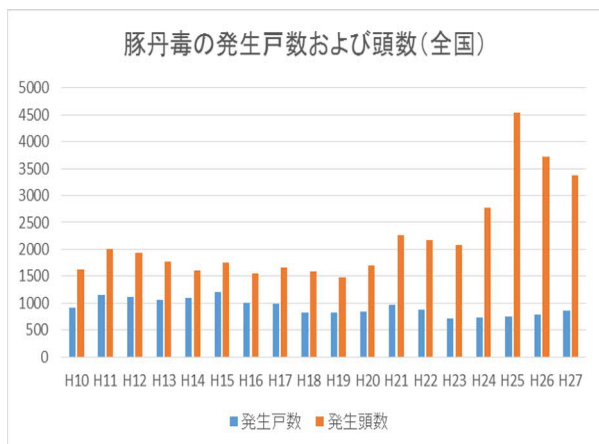
関節炎型: 関節炎のため起立困難を呈する豚

豚丹毒新型株に注意！

- ・従来の豚丹毒は慢性型が主であり、と畜場で発見されることが多い疾病でした。しかし平成21年ごろから急性敗血症型豚丹毒が関東や九州で流行し、遺伝子解析により **新型の強毒株** と判明しました。
- ・今年の1月に **県内の養豚場において、四国で初めて強毒株による豚丹毒が発生** しました。
- ・新型株による豚丹毒は 重篤な急性敗血症を発症しやすく、全身のチアノーゼを呈して死亡 します。 **致死率は高く50～80%** にのぼります。
- ・従来型と同様、ペニシリン系抗生剤に高い感受性 を示します。

豚丹毒の発生状況(届出件数)

- ・全国的に届出頭数は増加しており，県内の発生も増加傾向です。



豚丹毒の予防について

- ・次の点に注意して豚丹毒の発生を予防しましょう。

○飼養衛生管理基準の遵守：豚丹毒菌は，一般の消毒薬で殺菌効果があるため，豚舎の清掃や消毒を適切に行うようにしましょう。また，農場に出入りする車の消毒もしっかりと実施しましょう。

○ワクチンの適正使用：従来型，新型ともに生ワクチンまたは不活化ワクチンの接種が有効です。

「豚が急死した」，「調子が悪い」など気になる点がございましたらお気軽にご相談ください。

西部家畜保健衛生所

<吉野川庁舎> TEL: 0883-24-2029

FAX: 0883-24-1397

<東みよし庁舎> TEL: 0883-82-2397

FAX: 0883-82-4843